

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立毛利台小 学校

1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 厚木市教育委員会の基本目標 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 山田 香

学校教育目標	学校経営の方針
未来に向かってのびやかに生きる子どもを育てる	・小学校は、人生の根っこづくりの時期・・・未来に向かってのびていくじょうぶな根っこを育てよう ・そのためにたくさんの栄養をたくわえよう⇒栄養とは、高い自己肯定感 ・将来、困難にであっても「きっとだいじょうぶ。なんとかなるし、なんとかしよう」と手探りでも道を探していける ○学校経営の土台 インクルーシブな教育＝ひとりひとりがみんなを支え、みんなに支えられてひとりひとりがかがやく

今年度の重点目標

【確かな学び】・よく考え、自ら学ぶ子の育成⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 【すこやかな体】・健康で気力に満ちた子の育成⇒基本的な生活習慣形成のための指導の充実と安全教育・健康教育の推進
 【豊かなこころ】・認め合い、支え合い、協力し合う子の育成⇒主体性を高め、人との繋がりを大切にしたい
 校内研究「未来に向かってのびやかに生きる子どもを育てる」～自己調整力を育む授業実践～

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1) 確かな学び ○評価項目 学校づくりアンケート番号 ③⑦⑧	1・3	・校内研究において「自己調整力を育む授業実践」を目指して研究に取り組んだ。 ・家庭学習を一律の「宿題」ではなく、自分にあった課題に自主的に取り組む。 ・GIGAスクール端末の活用により、児童の思考の深まり、児童間の考えの共有の活性化を目指した。	・校内研究では、昨年度まで研究してきた「自らを客観的に捉える力（メタ認知）」「自己の課題を見つける力」「課題解決に向けて思考し、自分に合った方法で学習に取り組む力」の三つの力を育成してきたことを受けて今年度は「自己調整力」を付けたい力として授業改善、授業実践に取り組んできた。 ・家庭学習を一律の「宿題」ではなく自分にあった課題に取り組む自主学習へと移行した学年も多く、保護者アンケートでは児童が家庭学習に取り組むことへの肯定的な回答が少し減少した。 ・GIGAスクール端末利用は、児童は97%、教職員が100%と肯定的な回答であったことから校内でのICT端末利用は活発に行われていると考える。	・児童は、自己調整力を育む授業として「自由進度学習」に取り組む、「目標をもって楽しく学習に取り組んでいる」という回答は89%が肯定的な回答だった。しかし、「自分の考えたことや思ったことを話したり、書いたりする」という自ら発信するという授業態度については少し減少した。児童は挙手をして氏名されて発表することをイメージしているので、自ら考えて自ら選んだ課題解決方法で学習を進めることができる力であることを認識させていきたい。来年度からは更に「主体的な学び」を引き出し、「個別最適な学びと協働的な学び」を一体的に取り入れながら授業改善に取り組んでいきたい。保護者へは宿題ではなく自主学習への移行について丁寧に説明し、理解を深めてもらいたい。

(2)すこやかな体 ○評価項目 学校づくりアンケート番号 ④⑤⑥	1・2	・体育委員会の外遊びイベント、なわとび週間等全校で児童の体力づくりに取り組んだ。 ・交通安全教室の実施や通学路の見直し、登下校指導など交通安全に対する児童の意識を高めたり、避難訓練を通して、自分の命を守る意識を高めたりする取組を継続して行った。	・「外遊びをしているか」という項目についての肯定的な回答は、保護者が74%、児童が57%、教職員が94%という結果であった。児童の意識の低下の要因は、夏の暑さで屋外での活動が制限されたことにあると考える。しかし、体育委員会主催の外遊びイベントやなわとび週間などには多くの児童が積極的に参加する姿がみられ、運動すること自体にはどの児童も抵抗なく取り組んでいると考えられる。 ・地域の方の見守りが充実しており、今年度も大きな事故はなかった。しかし、自転車乗車時のヘルメットの着用や防犯ブザーの携帯率を見ると十分とは言えない。学校と家庭の両方で呼びかけを継続していきたい。 ・避難訓練を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高める取組を継続して行ってきた。避難訓練では、緊張感がない児童も見られた。	・児童が体を動かし、外で遊ぶことが全体的に減ってきている。近年の温暖化により、室内で過ごすことも増え、ゲームなどに遊びが偏り依存症も心配になっている。学校運営協議会の方々より地区によっては公園などで元気に遊ぶ姿も見かけるといった意見もいただいた。引き続き学校としては、児童の体力向上を進める取組をしていく。 ・地域学校協働活動推進本部主催でラジオ体操も行われ、地域でも児童の体力向上について考えていただいているので地域と協働して来年度も進めていきたい。 ・近年、自然災害も多く児童にとっても「自分の命は自分で守る」ことは身近な問題となってきたので、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。
(3)豊かな心 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ①②⑩	2・3	・リソースルームの配置の工夫や整備、心の教室の整備をした。 ・職員のインクルーシブ教育に対する意識を高めるために、校内研究と合わせて研修会を設けた。 ・児童運営委員会を中心に立案して学級、学校運営協議会委員などと共々様々な形態で「あいさつ運動」を展開した。	・学校は楽しいと回答している児童は90%で、肯定的な回答が多く見られた。引き続き児童にとっての「楽しい学校」をめざしていきたい。しかし、困ったことがあった時の相談に不安を抱えている児童が8%いた。 ・市から派遣していただいているリソースルーム支援員を十分に活用したり、特色ある学校づくり交付金の予算を使い環境整備や教材教具の工夫をしたりした。 ・インクルーシブ教育の研修を校内で行い、校内研究で「自由進度学習」を推進したことで、職員の授業改革の意識が高まった。 ・あいさつ運動を展開したことにより、アンケートの数値的には教職員、保護者共に増加している。しかし、学校外の地域でのあいさつでは、まだできていないという学校運営協議会委員からの意見もある。	・児童のほとんどが学校は楽しいと回答しているが、不安を抱えている少数の児童にも目を向けて、困った時に相談できる体制をしっかりと整えて全ての児童にとって楽しくて安心できる学校を目指していきたい。 ・来年度も引き続き、リソースルーム、心の教室の環境を充実させて、安心して学べる環境づくりをしていきたい。 ・来年度も「自由進度学習」など授業の工夫とともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」について更に研修をしていきたい。 ・あいさつについては今後も児童自らあいさつを意識できる活動を様々な形態で取り入れていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見 ・家庭学習は自主学習という形だと取り組むことができない子もいるのではない。 【学校側の見解】→学校でやるべき内容はしっかりと指導し、児童の学力や学び方は多様になっているので、家庭では自分に合った内容を自分に合った方法で学習していく力を身に付けさせたい。 ・毛利台地域として、地域の人が放課後塾のような取組をして学習面の手助けができればよい。 ・体を動かし、外で遊ぶ児童が減っている。地区によっては、公園などで元気に遊ぶ姿も見かける。 ・学校の相談体制は、学校だよりなどの発信から、チームで行っていることが理解できる。たくさん相談できる機会があることは良いことだと思う。 ・いじめの認知数や内容について理解できた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針 ・インクルーシブ教育を中心に、チームで様々な教育活動を行うことができた。GIGAスクール構想や新学習指導要領も4年目となり、実践的な取組になるように職員で共通理解をしながら検討を進めた。今年度は学校教育目標が「未来に向かってのびやかに生きる子どもを育てる」に変わり、校内研究の主題も同様にして取り組み、学校教育目標の具現化に向けて、組織的で機能的な学校運営を心がけることができた。学校運営協議会においても地域学校協働活動推進員を中心として運営方針について丁寧に検討を重ね、「みつやパートナー」の運営基盤が整い、様々な教育活動を地域の方々と共に取り組むことができた。次年度は更に「個別最適な学びと協働的な学び」を推進し、「自己調整力を育む授業実践」を重ねながら、教職員とめざす児童像を共有・連携し地域と共によりよい学校経営に取り組んでいきたい。				